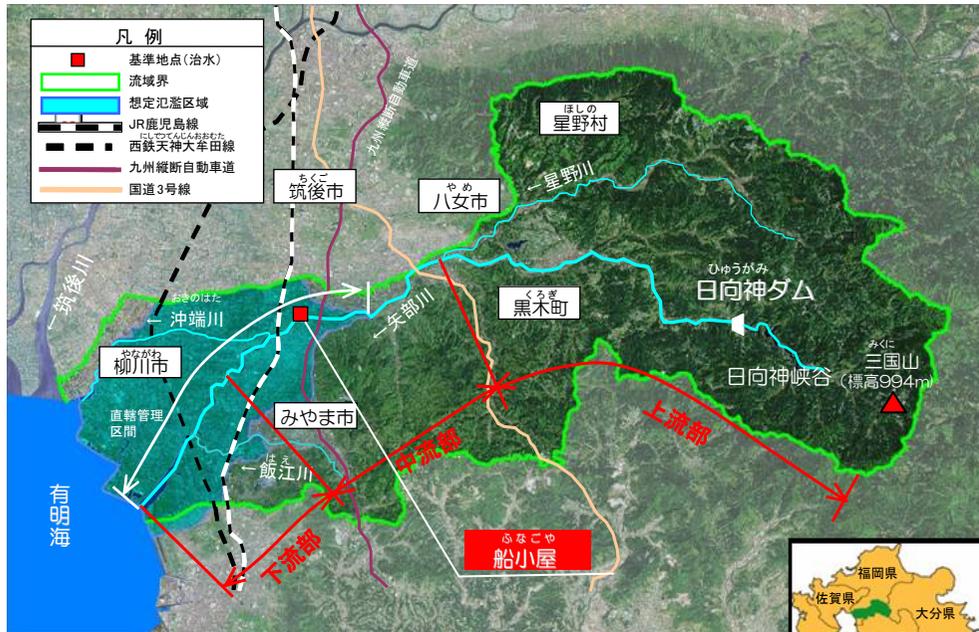


矢部川水系河川整備基本方針の概要

流域及び河川の概要

- 流域の年降水量は約2,500mmで全国平均約1,700mmの約1.5倍と多い
- 中流部は扇状地を形成し、下流部は沖積平野、河口付近は干拓地となり低平地が広がる。人口資産は中流部から下流に集中しひとたび氾濫すると甚大な被害が発生
- 下流部ではクリークが網の目のように発達し高度で複雑な水利用がなされている



流域及び氾濫域の諸元

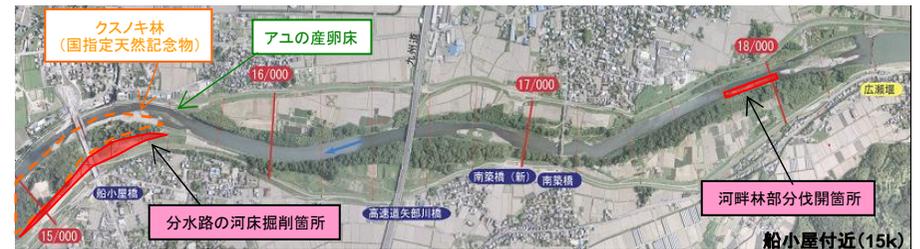
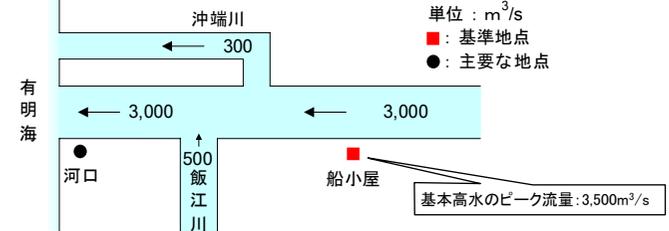
流域面積(集水面積) : 647km²
 幹川流路延長 : 61km
 想定氾濫区域内人口 : 約12万人



災害の発生の防止又は軽減

- 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量確率(1/100相当)による検証、既往洪水からの検証等の検討結果を踏まえ、基本方針においても規定計画と同様に基本高水のピーク流量を3,500m³/s(船小屋)と設定

【流量配分図】



- 基本高水流量と計画高水流量の差分については、既設の洪水調節施設により対応
- 河道では樹木伐開や放水路の河床掘削により3,000m³/sの流下能力を確保
- 堤防が老朽化し堤防高も不足している高潮堤防について、堤防を改築
- 超過洪水に対しては、関係機関と連携・調整しながら堤防や高規格道路等をネットワーク化し、復旧資材の運搬路や避難路を確保する広域防災ネットワークを構築

河川環境の整備と保全

- 上流部においては、渓流環境の保全に努めるとともに、整備にあたっては水域と陸域の連続性に配慮する
- 中流部は瀬・淵が連続し国指定天然記念物のクスノキ林やゲンジボタルの発生地があり、河畔林の伐開を必要最小限として河川、耕作地、クスノキ林のエコロジカルネットワークの保全に努める
- 下流部は汽水域で干潟が広がリムツゴロウ等が生息・繁殖。高潮堤防等の整備を行う際には、汽水環境や干潟環境の保全に努める



河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- クリークによる取水形態が複雑で取水量の変動が大きいため、水利流量の設定が難しい。よって、現段階で正常流量の設定は行わない
- 過去から営まれてきた独特の水利用を考慮しながら正常流量を含めた低水管理手法については、流量調査や環境調査等、河川や流域における諸調査を踏まえ、クリーク等を介した複雑な農業用水の利用特性を把握した上で決定していく